

## 【国東市長賞】

### 税金を払うこと

国東市立国東中学校 三年 原田 智咲

私は税金はくらしの中でも必要なことだとも思います。

税金は、みんなの幸せのためにみんなが負担し、みんなが使います。そのため、税金を払わなければ、小・中学生は学校に行けない人が増え、警察や消防などもお金を払わないといけなくなりません。また、日本では少子高齢化が進んでいるため、介護にもお金がかかり、一人一人の負担がどんどん大きくなっていきます。これをふまえると、税金を払うことは誰かを助けることにつながるということが分かります。

また、税金を払うときは国民全員が「公平」でなくてはなりません。つまり、全員が同じ分払うことは、持っているお金が少ない人からしたら、場合によっては「不公平」になるのです。だから「公平」を実現するためにみんなから同じ金額を集める消費税、特定の人が負担する固定資産税、同じ率で集める法人税、負担する能力に応じて集める所得税などを組み合わせています。これにより、税金を集めるときの「公平」が実現できました。

では、「公平」に使うにはどうすれば良いのかが問題になります。解決するには、よく話し合っ使って使うことしかないのです。一人一人の意見をしっかりと聞くことが「公平」に使うことを実現する

ことにつながると思います。ただし、まだまだ問題点も多いと思います。

そこで、選挙に参加することが重要になってきます。選挙に参加することで、税金について自分と同じ意見を持った人が国会で議論し、自分達の意見を伝えてくれます。つまり自分の意見が税の集め方や使い道を変えることになるかもしれないということです。そうになると、自分が満足でき、周りの人達の生活も豊になるかもしれません。

私は税金が使われていることや場所は知っていたけど、どうやって集められていたのかは知らないことが多かったです。税金を払うことにより、助かる人がいると思うと、うれしいなと思いました。また、今の私の生活を日本中の人が支えてくれていると思うと、とてもありがたいです。税金について何も知らなかったら、日本中の人の思いやりに気づけなかったらと思うます。それはとても悲しいことで、相手にとっても同じです。だから、税金についてもっと知って、同じぐらい考えて、自分も社会の一員として、これからも税金をいやな顔をせず払いたいなと思いました。